日立市立塙山小学校

第５学年　道徳科学習指導案

指導者

１　主題名　　誰に対しても思いやりの心を【Ｂ　親切、思いやり】

２　教材名　　ノンステップバスでのできごと（出典　新しい道徳　東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

本主題は、高学年の内容項目Ｂ「主として人との関わりに関すること」の２「親切、思いやり」において、「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること」をもとに設定したものである。

自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることであると考える。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。それは、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に相手に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考え、思いやりの心をもつことの大切さを自分との関わりで深く考えることができるようにしたい。

（２）児童の実態について

実態調査からは、ほとんどの児童が友達に対して親切にされたり、親切にしたりしたことがあることが分かった。その行為は、「分からないところを教えてもらった、教えてあげた」「給食当番を手伝ってもらった、手伝ってあげた」「文房具を貸してもらった、貸してあげた」など、主に児童の学校生活の中で身近に行われていることであった。また、知らない人に対しての行為は、「挨拶をされた、挨拶をした」「落としたものを拾ってくれた、拾ってあげた」などであった。これらのことから、児童は「親切」という行為を日常的に体験していることが分かった。児童の身近で行われている思いやりや親切な行為が、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所などでもできるようにしていきたい。

実態調査　６月２日実施　２１名

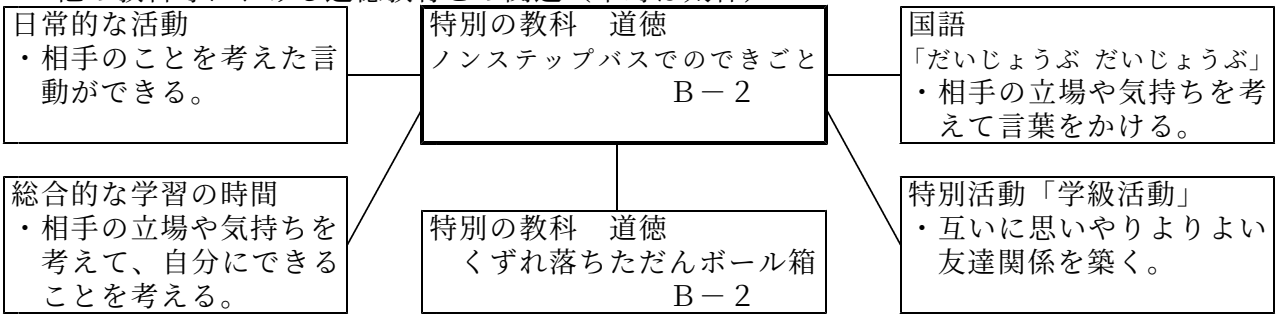
項　目	回　答
１　友達に親切にされたこと（優しくされたこと）はありますか。	ある１９名　ない２名
２　友達に親切にしたこと（優しくしたこと）はありますか。	ある２０名　ない１名
３　知らない人に親切にされたこと（優しくされたこと）はありますか。	ある１４名　ない７名
４　知らない人に親切にしたこと（優しくしたこと）はありますか。	ある１３名　ない８名

（３）教材について

本教材は、ノンステップバスに乗った主人公が、途中で車椅子の人が乗車することを知るが、時間を気にしていたためあまりよい気持ちがしない。しかし、周りの乗客は車椅子の人を手伝い、優しく声をかける。それを見た主人公は自分の思いを振り返るという内容である。

学習の導入でノンステップバスの写真を掲示し、バスへの出入り口が低いことや床に段差がないこと、車いすを乗せられることなどを押さえて、学習への理解へつなげたい。また、自分の考えをワークシートに書いてから発表することで、自信をもって意見を言えるようにしたい。学習の終末に「行為の意味」の詩を読むことで、学習のねらいへの理解を深めるとともに、余韻を残して学習を終われるようにしたい。

４　他の教科等における道徳教育との関連（本時は太枠）



5　本時の指導

（1）ねらい

相手の立場や気持ちを考えて、誰に対しても親切にしようとする心情を育てる。

（2）準備・教材

・読み物教材　　・ワークシート　　・場面絵　　・ノンステップバスの写真

・ボランティア活動の写真　　・「行為の意味」の詩

（3）展開　　☆配慮を要する児童への手立て

学習の流れ	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	児童への支援と評価（◎評価）
問題意識をもつ	1　知らない人に親切にした経験を思い起こす。 ○知らない人に親切にしたことはありますか。	・落とした物を拾ってあげた。 ・道を教えてあげた。	・実態調査の結果を伝え、親切にしたことを思い出すようにするとともに、本時の道徳的価値への方向付けをする。
	2　ノンステップバスについて確認する。 ○ノンステップバスを知っていますか。	・乗ったことある。 ・知らない。	・バスの写真を掲示し、教材への理解を深められるようにする。
教材で考える	3　教材を読んで話し合う。 ○3人の高校生の言葉に、和也はどんな思いでうなずいたのでしょう。	・バス停に迎えに来る祖母を待たせてしまう。 ・時間がかかってしまうのは迷惑だ。 ・混んでいない時間のバスに乗ればいいのに。	・ワークシートに考えを書くことによって、一人一人が自分の考えを明確にして話合いに臨むようにする。 ・自分の都合ばかり考えている和也の気持ちを押さえるようにする。
	◎車椅子のお兄さんとおじさんの会話をじっと聞いていた和也は、自分を振り返ってどのようなことを考えたでしょうか。	・自分のことしか考えていなかった。 ・自分勝手だった。 ・車椅子の人の気持ちを考えていなかった。 ・誰もがバスに乗るのは当たり前だ。 ・このおじさんはすごい。心が温かい。	・児童の発言を「自分の都合」「相手の気持ち」「見ず知らずの人への親切」「平等」等に分類して板書し、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めていく。 ☆意見がなかなか言えない児童には、似た考えの意見がないか聞くようにする。
自己を見つめ、多面的・多角的に考える	4　これまでの自分を振り返る。 ○誰かが見ず知らずの人に親切にしているのを見たとき、どう思いましたか。	・ウクライナでのボランティアを見た。困っている人を助けようとしていることがすごいと思った。	・テレビや新聞などで知ったことでもよいと伝える。 ・発言が少ないときは、ボランティア活動等の写真を見せて児童の思いを引き出すようにする。 ◎相手の立場や気持ちを考えて、誰に対しても親切にすることの大切さを実感できたか。（発表・ノート）
自己の生き方について考えを深める	5　本時の学習を振り返る。 ○今日の学習で学んだことをまとめる。	・誰に対しても思いやりをもった行動をしようと思った。 ・相手のことを考えて行動することが親切だと分かった。	〔目標を達成した児童の姿〕誰に対しても親切にすることの大切さについての記述がある。　【ノート】
	6　詩「行為の意味」（宮澤章二）を読む。		・詩を読むことで、思いやりの意味について考えを深められるようにする。

6　事後の指導

・相手の立場や気持ちを考えた言動について称賛し、日々の生活の中で誰に対しても親切にできる力を育成するようにする。また、よりよい人間関係が築けるような学級経営に努める。